

おきたま 社会教育情報

Vol. 145 令和4年10月号

第13回山形県社会教育研究大会 (兼) 令和4年度置賜社会教育振興大会

10月21日(金)長井市民文化会館及びタスパークホテルを会場に標記大会が開催されました。「地域の特色を活かし未来を拓く社会教育のあり方～いのち、学び、地域をつなぐ社会教育～」のテーマのもと、県及び地区表彰、伝統芸能発表、分科会を行いました。

伝統芸能発表では、長井市に約千年前から続くといわれている黒獅子舞を長井市の小出獅子連の方々から披露いただきました。軽やかな笛と太鼓の音や御信心(邪気払い)の際に獅子が歯打ちをする大きな音が会場に響き渡り観る方々をひきつけました。長井の方々の心の拠り所になる黒獅子舞を県内の方々にお伝え出来たのではないのでしょうか。

分科会では、置賜から「ながい黒獅子まつりの取組み」というテーマで長井市観光協会事務局長の今野 誠 氏、「地域を知る、歩く、学ぶ」というテーマで米沢市万世コミュニティセンター事務局長の我妻 和彦 氏の2名から話題提供をしていただきました。どちらも地域活性化のために様々な取組みをなされ、地域内だけでなく地域外の方々も巻き込んでの活動をなさっていました。その活動を成り立たせるためにもたくさんの苦勞があり、その点について参加者からも質問がありました。

この大会を開催するにあたり、会場地の長井市の地域づくり推進課と観光文化交流課、置賜管内の教育委員会社会教育主管課、各地区教育事務所社会教育課、県教育庁生涯教育・学習振興課の皆様から多大なご協力をいただきました。次回の置賜での開催は3年後、令和7年度に川西町を会場にして行われる予定です。次回も素晴らしい大会にできるよう「置賜は1つ」の合言葉をもとに取り組んでいきたいと思ひます。



開会のあいさつ
実行委員長 宇山栄一



開会のあいさつ
副実行委員長 加藤俊昭

第1回家庭教育出前講座 米沢市ファミリー・サポート・センター

9月8日(木)、米沢市の中部コミュニティセンターで第1回家庭教育出前講座を開催しました。今回は、米沢市ファミリー・サポート・センターの協力会員の方を対象に「かゆいところに手が届く 保育のサポートを考えよう!」の演題で小野卓也 氏(山形県家庭教育アドバイザー)より講演していただきました。山形県は子どものいる夫婦の共働き率が全国に比べ高く、ひとり親家庭も平成2年と令和2年を比べると増えています。このような背景を踏まえ、「保育のかゆいところ」とは「孤独感の解消である」と教えていただきました。利用者の方がいざというときに頼れるように、信頼と安心感を得るには「傾聴」が重要であり、心の持ち方を見直す方法も紹介していただきました。今回はファミリー・サポート・センターの養成講座の1講座を家庭教育出前講座として開催しました。地域の子育てや家庭教育を支える人材育成のよい機会になったのではないかと思います。置賜教育事務所では、家庭教育出前講座において、ご希望に合わせた講座をプロデュースします。ぜひご活用ください!



※ファミリー・サポート・センターは、地域に住む、育児を応援してもらいたい人(利用会員)と育児をお手伝いしたい人(協力会員)を結ぶ会員組織で、事務局のアドバイザーが会員同士の橋渡しを行い、一時的・突発的なお預かりや送迎などを行います。

第2回放課後子ども総合プラン指導者研修会

9月15日(木)に、第2回放課後子ども総合プラン指導者研修会をオンラインで開催しました。スマイルよこて代表の佐藤マサル氏を講師に迎え、「怒りの感情と向き合うアンガーマネジメント～コミュニケーション編～」と題して講演いただきました。怒りの正体は、「こうあるべき」という自分の理想と現実とのギャップによって生まれるものであること、基準を明確にして、具体的かつ明瞭な表現でリクエストを伝えることが上手な叱り方であることなどを、自身の経験を交えながら分かりやすくご講話いただきました。参加者からは、「抽象的な言葉を使ってしまいがちなので、今日学んだことを意識したい。」「やってほしいことを具体的な表現で伝えることを練習していきたい。」などの感想をいただきました。今後の業務や日常生活で活かせることをたくさん学んだ研修会となりました。

この度の研修会が今年度の最後の研修会となりました。次年度も参加者の皆さんのニーズに沿った研修会を計画して参ります。多数のご参加をお待ちしております。



第1回家庭教育支援フォーラム

怒りの感情と向き合うアンガーマネジメント ～コミュニケーション編～

9月15日(木)に、第1回家庭教育支援フォーラムをオンラインで開催しました。講師は、スマイルよこて代表の佐藤マサル氏です。今回の研修会は、放課後子ども総合プラン指導者研修会と同日に開催しました。参加者からは、「怒る事、叱る事すべてが悪いわけではなく、必要に応じて上手に怒る・叱る事が大事だという事に納得しました。」「怒りの感情をコントロールできるようにする具体的なトレーニング方法も知ることができ、実践しやすく、早速試していきたいと思いました。」などの感想をいただきました。

参加者からは、「怒る事、叱る事すべてが悪いわけではなく、必要に応じて上手に怒る・叱る事が大事だという事に納得しました。」「怒りの感情をコントロールできるようにする具体的なトレーニング方法も知ることができ、実践しやすく、早速試していきたいと思いました。」などの感想をいただきました。



第30回山形県スポーツ・レクリエーション祭ふれあい交流会

10月15日(土)、川西町農村環境改善センターおよび川西町民総合体育館を会場に、第30回山形県スポーツ・レクリエーション祭ふれあい交流会が開催されました。川西町の総合型クラブ「スポーツかわにし」の菅井新一氏、江藤修人氏を講師にお招きし、モルックとボッチャの体験会を行いました。当日は50名程の参加があり、チーム対抗トーナメント戦を行ったモルックでは特に大きな盛り上がりを見せました。

モルックとは、モルック(円柱状の棒)を投げて、1から12までの番号が振られたスキttlを倒し、得点を競うゲームです。複数本倒した場合は倒した本数が得点になり、1本だけ倒した場合は倒したスキttlの番号が得点になります。先に50点になったチームが勝利となりますが、50点を超過してしまうと25点まで戻ってしまいます。やればやるほど奥深さを感じる競技で、老若男女誰でも楽しめます。地区の行事、子ども会行事、体育の授業、PTA学年行事など、幅広く活用できそうです。下の表の団体からお借りすることもできます。ご希望の方は各団体、または置賜教育事務所社会教育課までお問合せください。

★モルックを所有している団体

長井花のまちスポーツクラブ	1	
川西町民総合体育館	2	
川西町吉島地区交流センター	4	
小国町総合型スポーツクラブYui	4	簡易版あり
白鷹町総合型地域スポーツクラブRO*KU	2	室内版あり
白鷹町スポーツ推進委員会(白鷹町教育委員会)	1	

他にもモルックを所有している団体があれば教えてください。



※本情報紙の本文は、UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体を使用しております。

【お問合せ先：置賜教育事務所社会教育課 TEL 0238(88)8242】